



## 利益よりも人々を優先

### - パネル 9 - パンとバラ： 体だけでなく、心も飢える

「働く女性が望むものは、ただ生きながらえるだけの権利ではなく、暮らしの権利、金持ちの女性が持っているような暮らしの権利、太陽と音楽と芸術を享受する権利です。最も貧しい労働者が持っていない権利をあなた方も何も持っていないのです。労働者にはパンが必要ですか、バラも必要なのですか。」 ローズ・シュナイダーマン、1912年

これは、多くの移民労働者のコミュニティを団結させ、主として女性たちが先頭に立ったローレンスの織物工場のストライキに関連する言葉である。これは、世界中の労働者の賃金や労働条件の向上といった伝統的な要求に加えて、政治参加と尊厳ある生活を求める要求を象徴する言葉となった。その要求は、最も広い意味において、政治参画、教育、表現の自由、豊かな文化的な生活へのアクセスも含んでいる。

しかし、市場原理主義と商業主義が生活のすべての領域にますます侵入している世界において、こうした活動の性質と機会は狭められている。博物館は入場料を徴収し、図書館や水泳プールは閉鎖され、芸術は商業化され、国立公園は財源不足となり、新聞社は利潤追求の経営となり、スポーツはビッグ・ビジネス化し、教育は民営化される。

すべての人に平等なアクセスを保証し、芸術と文化が単に主流の経済的・社会的パラダイムだけを映し出すものではないようにするには、世論の支持と公的資金が必要である。緊縮経済の時代には芸術や文化は往々にして最初に犠牲になる。さらには、教育、文化、メディア、芸術は社会変革を生み出す強力な力であるのに、それらが攻撃にさらされる事態にあっても左派勢力はこれらをほとんど活用してない。

公共部門労働者、芸術家、教育者、ジャーナリスト、文化労働者はこうした価値を体現していて、こうしたものを提供するにあたって基本的な存在であり、しばしばそれらを守る最前線にいる。彼らの貢献は市場の取引を超越して広がる、そして彼らは活動においてしばしば大きな犠牲を払うのである。